

令和7年度

「運営に関する計画」



中間評価

大阪市立関目小学校

大阪市立関目小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

I 学校運営の中期目標

現状と課題

- 児童は、学校のきまりや健康や安全を守る取組を実行できている。(肯定的回答94.9%)
- 学校で認知したいじめは100%解消、暴力行為を複数回行う児童は0名、不登校児童は保護者等との連携し取り組んでおり、今後も、いじめ、暴力行為、不登校対策に、組織的に迅速かつ徹底的に取り組む。
- 健康面では、健康を守る啓発活動や安全点検等の取組継続的に行っており、児童の手洗い・うがいや意識付けについて習慣化できているといえる。(肯定的回答95%以上)
- 学力については、小学校学力経年調査において、各学年とも全教科大阪市平均を上回っている。しかし、学力の二極化傾向の実態や自己肯定感の育成について、引き続き、取り組む必要がある。また、「自分の考えを深めたり、広げたりすること」についても、アンケートのでは肯定的な回答が前年度は77.7%に留まっている。そこで、授業では、考えを述べることや考えを聞き合う活動を設定し、児童同士が尊重し合うことを大切にしながら、同時に自己肯定感の育成につなげる指導・支援が必要である。
- また、体力面では、握力、立ち幅跳びが全国及び本市平均を下回っており、体育学習での継続的な取組が必要である。
- ICTの活用については、すべての学年において授業における教材提示や一人一台端末を日常的に活用することに取り組み、学校や家庭における活用の仕方に工夫してきた。今後も、授業におけるデジタル教材の活用や端末を活用した児童の実態把握、自主学習における端末の活用等、活用の幅を広げるとともに、児童のICT活用能力を高める必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。(R6 89.4%)
- ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R6 80%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R6 84.2%)
- ・令和6年度の小学校学力経年調査における自主学習に関する項目「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習(予習・復習など)をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、いずれの学年も前年度よりも向上させる。(R6 65.3%)

【学びを支える教育環境の充実】

・ICTの活用に関する目標

- ・学校アンケートにおける「デジタル教材や端末を使った学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・3年生～6年生は、令和7年度小学校学力経年調査における「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、50%以上(3年)、60%以上(4年)、80%以上(5年)、100%(6年)とする。
(R6 3年76.7%、4年90.6%、5年88.4%、6年95.8%)

・教職員の働き方改革に関する目標

- ・令和7年度までに、年休を10日以上取得する教職員の割合を100%以上にする。
- ・令和7年度までに、ゆとりの日(定時退勤日)を週1日設定・実施する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小・中学校)

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%を維持する。(R6 89.4%)
- ・学校アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R6 80%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標(小・中学校)

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも0.5ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を80%以上にする。

学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%を維持する。(R6 84.2%)

- 令和7年度の小学校学力経年調査における自主学習に関する項目「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習(予習・復習など)をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、いずれの学年も前年度よりも向上させる。(R6 65.3%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(小・中学校)

学校園の年度目標

一人一台端末の配付により整備されたICT教育環境について、日常的に活用を図ることで、児童自身のICT活用能力の育成を図る。

- ・デジタル教材を活用した学習指導を実施することにより、学校アンケートにおける「デジタル教材や端末を使った学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- ・3年生～6年生は、小学校学力経年調査における「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、40%以上(3年)、45%以上(4年)、80%以上(5年)、81%以上(6年)とする。

(R6 3年76.7%、4年90.6%、5年88.4%、6年95.8%)

・教職員の働き方改革に関する目標

教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が児童の前で健康で生き生きと働くことができ、児童一人一人に向き合う時間を確保することができる環境の実現をめざす。

・年休を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立関目小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標Ⅰ 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1-1 問題行動への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校安心ルール」の活用や学校のきまりを理解し、児童が自らを律する力を身に付けられるよう、学校教育活動全体を通じて規範意識を醸成し、問題行動発生の未然防止につなげる。 <p>指標 ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(R6 82.4%)</p>	B
<p>取組内容②【2-1 道徳教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が個性を伸長し自己肯定感を高めると共に、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値を理解し、自己のよりよい生き方につながる道徳授業等、教育活動全体を通じて取組を推進する。 <p>指標 ○令和7年度の学校アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的「そう思う(どちらかといえば、そう思う)」に回答する児童の割合を82%以上にする。(R6 80.0%)</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 学校安心ルールや学校生活の約束など、掲示や声掛けによって守れている児童が多い。また、どうしてそのきまりがあるのかということについても各学年でその都度話をしている。保健室でもけがで来室した児童については話をしっかりと聞いて、わざとではないことや、わざとでなくても「ごめんね」と言うとまた仲よく遊べるねなど児童同士の関係がよくなるよう声掛けをしている。一方で、冷やかしやからかい、いじりなどいじめにつながるような言動もみられるときがある。</p> <p>② 道徳科の学習を計画的に進めることができておらず、またほかの学習においても、一人一人の意見を認め合う雰囲気づくりに努めている。また、帰りの会などに時間を活用して、友達のよさや自分のよさを認め合ったり振り返ったりする時間を設けている。</p>
後期への改善点
<p>① きまりの徹底、いじめ問題についてなど継続して指導していく。また、きまりについては保護者にも周知が必要かもしれない。</p> <p>② 道徳の学習だけでなく、指導者からの声掛け、友達同士の声掛けによってお互いを認め合える雰囲気づくりを継続していく。</p>

(様式2)

大阪市立関目小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A :目標を上回って達成した B :目標どおりに達成した C :取り組んだが目標を達成できなかった D :ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも0.5ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を80%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校アンケートにおける「自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりして、自分の考えと比べることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R6 84.2%) 			
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が見通しを持って粘り強く、また主体的に取り組むとともに、思考力・判断力・表現力を育成するために、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一層の充実を図る学習を推進する。 <p>指標 ○学校アンケートにおける「自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりして、自分の考えと比べることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>取組内容②【4-4 基礎学力の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語および算数において、様々な児童に応じた指導支援を工夫することで、自ら学ぼうとする意欲を喚起し、学習の定着を図るようにする。 <p>指標 ○令和7年度の学校アンケートにおける「学校での勉強は、分かりやすく、楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。</p>	進捗状況		
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① 学習形態を工夫し、意見交流の時間を多く取るようにしているが、低学年では自他の考えを比較することが難しかったり、高学年では自分の考えを伝えることに恥ずかしさや抵抗を感じている児童が多かったりして、まだ主体的・対話的に取り組むところには到達できていない。</p> <p>② 習熟度別学習や、個に応じた学習内容を工夫することで、進んで学習しようとする意欲につながっている。しかし、基礎学力の定着を図るための取り組みにおいて、難しいと感じる児童もいる。</p>			
<p>後期への改善点</p> <p>① 学習形態を工夫し、児童が主体的に自分の考えを表現できるような取り組みを継続していく。低学年にとって、自他の考えを比較して考えを広げたり深めたりすることは難しいので、「自分の考えを伝え、友だちの考えを聞くことで、自分の考えとの共通点や相違点に気づく」ことを目指すこととする。</p> <p>② 導入の工夫や具体物など教材教具の工夫を取り入れ、学びの楽しさを実感できるようにする。</p>			

ふりかえり活動の充実化を図るとともに、少人数で伝え合う場面を計画することで、一人一人の考えを学習に反映し、学力の定着につなげていく。

(様式2)

大阪市立関目小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標			達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校) 学校の年度目標</p> <p>【教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) ICT を活用した教育の推進】</p> <p>一人一台端末の配付により整備されたICT教育環境について、日常的に活用を図ることで、児童自身のICT活用能力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材を活用した学習指導を実施することにより、学校アンケートにおける「デジタル教材や端末を使った学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 ・3年生～6年生は、小学校学力経年調査における「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、50%以上(3年)、70%以上(4年)、80%以上(5年)、85%以上(6年)とする。 <p>(R6 3年76.7%、4年90.6%、5年88.4%、6年95.8%)</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <p>教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が児童の前で健康で生き生きと働くことができ、児童一人一人に向き合う時間を確保することができる環境の実現をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年休を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。 ・ゆとりの日(定時退勤日)を週1回設定・実施する。 			
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【6-1 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) ICT を活用した教育の推進】</p> <p>・児童が日常的にICTを主体的に活用し、多様な情報を選択・活用しながら情報活用能力を高め、主体的な学びを通じて育成する資質・能力と円滑な学びの保障につながる取組を推進する。</p>			進捗状況
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。 ○ 学校アンケートにおける「デジタル教材や端末を使った学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。(R6 88.5%) ○ 3年生～6年生は、小学校学力経年調査における「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、50%以上(3年)、70%以上(4年)、80%以上(5年)、85%(6年)とする。 <p>(R6 3年76.7%、4年90.6%、5年88.4%、6年95.8%)</p>			B
<p>取組内容②【7-1 働き方改革の推進】</p> <p>・教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が児童の前で健康で生き生きと働くことができ、児童一人一人に向き合う時間を確保することができる環境の実現をめざす。</p>			
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年休を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。 			
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>①ローマ字入力の習得のためのタイピング練習や基礎学力の定着を図るナビマの活用を通して、様々なスキルを身につけることができている。発表ノートの活用やパワーポイントの作成、kahoot を</p>			

用いた活動などを通して、興味関心をもって学習に取り組んでいる。

②9月末時点で、80%の教職員が年休を5日以上取得している。

後期への改善点

①タブレットの活用を今後も進めていく。さらに、これから使いだす1年生も含め、タブレットを使う際や持ち帰りのルールについて教職員間で共通認識をしたうえで、学級独自の約束を児童と共に確認していく必要がある。

長時間勤務の解消に繋がる取り組みを進め、教職員の働きやすい環境を目指していく。